

氏名	山口（西田）乃生子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	成人看護学 グローバルヘルス/国際保健 感染症看護				
学位	博士（保健学）				
学歴	2003年北里大学大学院看護学研究科 2009年東京大学大学院医学系研究科博士課程				
経歴	04年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、08年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 17埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授 23埼玉県立大学保健医療福祉学部教授				
所属学会（役職）	日本ハンセン病学会、日本国際保健医療学会、日本看護学教育学会（専任査読委員）、日本公衆衛生学会、日本環境感染学会、日本看護科学学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、日本エンドオブライフケア学会（学術誌編集委員）、日本緩和医療学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	高次脳機能障害を有する患者の発症直後から退院までの期間に家族が医療従事者から受けた支援に関する実態調査	共著	あり		日本ニューロサイエンス看護学会誌; 11(1) ; P3-11.	東口晴菜, <u>山口乃生子</u> , 朝日雅也	2025.9
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会科学研究費補助金（分担研究者）（基盤研究C）	急性期の高次脳機能障害者と家族への医療アクセシビリティを高める看護支援モデル開発			研究分担者	2025.04～2026.03	
2	日本学術振興会科学研究費補助金（分担研究者）（基盤研究C）	ポジティブ・ヘルスに資する若年者向けヘルスリテラシー育成プログラムの開発			研究分担者	2025.04～2026.03	
3	日本学術振興会科学研究費補助金（代表者）（基盤研究C）	「もしも」の時の医療・ケアの話し合い行動意図尺度を用いた家族参加型ACP研修の開発			研究代表者	2025.04～2026.03	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	成人看護学Ⅳ	○	7	クリティカルな状況下における患者や家族への看護援助について、事例や昨今の健康課題を通して講義を行った。			
2	成人看護学Ⅴ		4	循環器疾患患者の看護展開についてグループワークを行い、学生の進捗を踏まえた介入を行った。			
3	グローバルヘルスと看護		4	地球規模で考える健康課題について、開発や貧困、人権や健康権に関して多面的に講義を行った。			
4	ヒューマンケア論		1	エンドオブライフケアを通して「生」を考えられるよう、事例などを提示しながら講義を行った。			

5	(大学院) 国際保健医療福祉論	○	7	国際的な保健医療福祉の課題、高所得国と低所得国の国際比較を通してその実態を正しく理解できるよう双方向の講義を行った。
6	(大学院) 保健医療福祉学際英語		2	国際共同研究を実施する上での手法や分析例を中心に講義を行った。
7	(大学院) 看護理論		1	危機理論、スティグマ理論、レジリエンス理論について履修者の理解度に合わせ講義を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	成人看護学Ⅳ	○	4	初療フィジカルアセスメントの理解が深まるよう、事例を提示しながら学習できるよう関わった。
2	成人看護学Ⅱ		4	脳神経疾患患者のフィジカルアセスメントが適切に実施できるよう演習形式にて授業を行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	成人看護学実習Ⅰ		2025.5～2025.6	看護学科3年生に対し急性期患者の看護について対面およびオンラインで指導した。
2	成人看護学実習Ⅱ		2025.5～2025.6	看護学科3年生に対し臨地実習における看護実践対面で指導した。臨床経験の少ない学生に対し、臨地実習指導者と情報交換しながら進捗状況を確認した。
3	総合実習		2025.7～2025.7	看護学科4年生に対し、領域の窓口として実習配置、学生配置、実習オリエンテーションを行い、科目運営、評価の取りまとめなど行った。
4	IPW実習		2025.8～2025.8	学科4年生を対象にし、オンラインでも多職種連携を学ぶことができるようディスカッションや交流の時間を持つなどの工夫をした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	学部 卒業論文	2025.4～2026.3	主指導 2名	副指導 0名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導 1名	副指導 1名
3	博士論文	2025.4～2026.3	主指導 0名	副指導 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	埼玉県立大学大学院博士前期課程 修士論文審査	2025.8	修士論文審査において副査を務め、研究の妥当性および論理構成の明確化に向けた助言を行った。	
2	板橋中央看護専門学校 第1学科 非常勤	2025.4	「看護管理と看護の動向」で国際協力と看護について3コマ講義を行った。	
3	北里大学大学院看護学研究科	2025.10	「感染看護学Ⅴ」として低開発国の感染状況、感染対策について1コマ講義を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	オープンカレッジ講座：SPU★ナーシング～看護師を目指す高校生のためのオープンカレッジ～	埼玉県立大学	高校生を対象に、グローバルな感染症対策、シミュレータを用いた模擬講義を行った。	2025.8
2	オープンカレッジ講座：さいごまで自分らしく生きるための心づもり～「もしも」の時に備えて～	北本市・埼玉県立大学（共催）	地域住民を対象にACPに対する普及活動の一環として、対話を重視した研修を開催した。	2025.11
3	キャリアラダー研修	越谷市立病院	「看護理論Ⅱ」として、看護実践に活用する中範囲理論について講義を行った。	2025.11

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	日本看護学教育学会		専任査読	2025.4~2026.3
2	保健医療福祉科学学会		査読	2026.1~2026.3
3	日本エンドオブライフケア学会		編集委員会委員	2025.4~2026.3
4	一般財団法人大学教育質保証・評価センター		大学機関別認証評価 専門委員	2025.4~2026.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	国際協力事業	JICA埼玉デスク	青年海外協力隊との連携事業	2025.11
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	高等教育開発センター副センター長		2025.4~2026.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	学部教務委員長		2025.4~2026.3
3	学科等における委員会等	看護学科カリキュラム運営検討会リーダー		2025.4~2026.3
4	学生支援	進路相談 就職相談（学部生および卒業生） 3名		2025.4~2026.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			